

中国を見て・感じて・探る…大連事務所発のレポート

NNAのネットニュースより

## ローソンが大連市に進出

ローソンが遼寧省大連市に進出する。現地飲食チェーン経営の大連亜恵快餐と手を組み、合弁会社を設立、市内で店舗展開を図る。ローソンは上海市、重慶市に次ぐ中国3都市目の進出で、日系を含む外資のコンビニエンスストアが同市に店舗を設けるのは初めて。

いよいよ大連にも日系のコンビニが進出して来る。大連市で暮らす日本人にとってはかなりうれしいニュースだ。現在、大連には「快客」「太陽系」などの中国系コンビニがある。一番多い「快客」だけでも300店舗を超えているので、70店舗の「太陽系」や個人経営のコンビニ風の小売店を加えとかなりの数がある。

しかし中国系のコンビニはとにかく行きたくない店がほとんどだ。照明は暗く、通路は一人歩くのがやっとぐらい狭い、並べてある商品は埃っぽく、おまけに店員は無愛想極まりない。

営業時間は、店によってまちまちだが、夜の10時にはほぼ閉まっている。小さな店は店員一人の場合が多く、その店員が外出している時は、当然のように店が閉まっている。中国語ではコンビニを「便利店」と書くが、便利という意味が分かってないと思いがちだ。

日本人にとってはローソン進出は待ちわびていたことだ。しかし、本当にローソンが大連でやっていけるのかとなると、それはまだ分からないと思う。なぜなら大連の一般人の感覚は、コンビニ=高い 日系=高い だからだ。

大連では、まだまだコンビニで買うよりも一般の小売店で買うほうが主流だ。中国では、「これいくら？」と聞き、値切りながら買うもことが買い物だとい感覚があり、コンビニでプライスカードの値段で物を買えば、高く買ったという思いがある。しかも日系の店となると、行く前からここは高いという観念を持たれてしまう。

ローソンが大連での店舗展開にあたって合併で会社を作る「大連亜恵快餐」は、大連で中華料理のファーストフード店を経営する会社で、ローソンの筆頭株主でもある三菱商事が出資している。この店は、一人あたりの客単価が20円以下の飲食店で、市内繁華街には必ずといってある、安くてキレイなお店だ。

この2社の組み合わせでローソンを大連市内で展開する。合併会社は資本金2200万元（日本円で（2億5千万円弱）で、ローソンが95%を出資する。1号店は、10月中に、中国人の若者や日本人が多数働いているソフトウェアパークにオープンし、すでに2号店、3号店の出店計画も進行しているとのこと。2016年末までには、大連市内で200店舗の出店を目指している。

ローソンの出店は、2年前に大連で噂になった。サマーダボス会議でローソンの今浪社長が来たとき約束したと言われていた。オリックス中国本部の大連誘致とローソンの大連進出は、サマーダボス会議を大連で開催した大きな成果だと関係筋は胸をはっていた。

その後、ローソンは上海に次いで重慶に出店することを決め、大連の話は、ダボス会議開催への市民の批判を交わすための宣伝だったのかとも思われていた。しかし今回の発表によって、あの噂が真実であったことが証明された。

今後、中国の様々な都市へ展開し、中国国内の店舗数を1万店にすることを目指すローソンの中国事業。中国人にどこまで日本のコンビニが受け入れられるのかは、まだまだ未知数だが、今の中国の便利店を見る限り、圧倒的に勝利できるように思える。

中国人の生活様式も変わり、今やショッピングサイトの「淘宝」が最大の売り上げを記録している。色々な事情はあると思うが、汚くサービスの悪い商店に行きたくないという理由で、ネットショッピングを行う人も少なくないと思う。

すぐに欲しいものを、きれいで明るい店舗にならば、日本流の接客を行っていけば、必ず中国人にも受け入れられるはずだ。ローソンが、大連の街のホットステーションになる日もそう遠くはないだろう。

